

常磐文藝
いとしき薔薇
葉山不二夫

希望多き朝なれど
露に色あせ散る
あはれわが愛しき
薔薇なりや。

去にし日の
別はつらし其の夕、
君がみ胸に贈りてし
思ひ出深き花故に、
案じわづらう
君が身を――。

東京行進曲
目下……
帝都流行の
ジャズソング
波浮の港の歌手
佐藤千夜子嬢が
心地良き
管絃同伴奏で
ピクチャーレコードに

會田時計店
平町四丁目(電三三三三)
蓄音器・貴金屬
平町紺屋町(縣社通り)

全日本遠藤のパン
商標 正味 前重
三種ナ 体温器
寒暖計 電四〇番

新築移轉
耳鼻咽喉科専門
氣管食道科
平町南町(舊診療所向)電話一七〇番
大和田醫院

原齒科醫院
平町土橋通り電話三二一番

夏の學生服
本年も例のなかやに……
丈夫で型が良く色のサメ
ぬ夏服が澤山揃ひました
小 學 用
1號七八才用 90錢
2號八九才用 1圓00錢
3號九十才用 1圓10錢
4號十一十二才用 1圓20錢
5號十二十三才用 1圓30錢
中學生用(極上品)
5號一年生位 2圓50錢
6號二年生位 2圓70錢
7號三年生位 2圓90錢
8號四年生位 3圓10錢
9號五年生位 3圓30錢
各學校制定額は15錢高
なかや洋服店
平二 電(二〇三)

花外科専門
木村外科醫院
入院自炊の便あり
平町五丁目橋際
電話三〇九番

色川材木店
目課業營
材木並びに製材
土木建築請負
貸家業
電話三四一

定一部金貳錢 廣五號十二 休日曜大祭 福島縣石城郡平町長橋町三五
一ヶ月廿錢 告五字一 刊日祝日 發行所 常磐毎日新聞社
郵税五厘 料五字一 日祝日 電話六三〇番

常磐新報

日刊 發行兼編輯人 川崎文治 本社同番地(電話六三〇番) 印刷所 常磐毎日印刷所

刊夕日二十二月六

漢學先生
文學博士 遠藤隆吉

支那の文章は簡潔である、
四角の文字の行列であるか
ら勢ひ簡潔ならざるを得な
いのである、特に漆で書い
たるが爲に、書くことそれ
自身が困難であるから之を
簡潔にしない譯に行かない
のである。古代に遡るに從
つて簡潔である、而して口
調が良い。それこそ真に一
字苟もせざる云ふ状態であ
る、子夏の徒一字を贅す
る能はず、と云ふ位のもの

あるであるからして後世
の文章家でも虚字を下すの
は恰も金玉を投するが如く
せよといふて、餘程惜しん
だものである。何でも簡潔
を主とする所が西洋の書物
は初めよりして長いパイプ
ルの或物は二千四五百年前
のものであらうけれども如
何にも委曲詳密である。是
はペンで以てパピルスに書
いたと言ふことか一つの原
因であつたらうと思はれる
即ちパピルスならば漆で竹
に書くよりも餘程書き宜い
に違ひない、即ち漆で書け
ば文字が大きいけれどもペ
ンでパピルスに書けば小さ
く出来る小さく出来れば多
數餘計書けると云ふことに
なる、多數書けると云ふこ
とが即ち細かに書くと云ふ
一つの原因であつたらうと
思ふ。又其の外の方面から
言へば支那の文字は其の淵
源に於て發音を示すもの
ではない、物象を示すもの
である。例へば太陽を示す
に◎を以てした、而して之
を「じつ」と呼んで居つたの
であるじつは音である、若
し音を示したらば支那人の
話通りに書いたらうと思は
れる

警城セメント會社特約店

釜屋商店

警城平町五丁目 電話九番 一三九番

▽良品廉賣は勝る商畧なし△
▽確實敏捷は釜屋の生命なり△

營業種目 **石炭 コークス 玉炭**

- 警城第一ノ石炭トシテ自他共ニ推稱スル
- 警城炭礦ノ最上石炭 壹俵 金六十五錢
- 日本第一番評番ノ良イ東京瓦斯コークス 一、コークス 壹俵 金壹圓三十錢
- 木炭ノ三倍御徳用ナ九通ノ玉炭 一、玉 炭 大箱壹箱 金 貳 圓

配達ハ一俵ヨリイタシマス
電話 一一三七番
平驛前 **阿部石炭商店**

氷水開業廣告
弊店事蒲鉾製造販賣を興業以來各位の特別なる御引立
を蒙り候段厚く御禮申上候夏期中は蒲鉾製造を休み氷
水販賣に従事致し候につき何卒御用命御引立の程願上
候
平町二丁目(電話一四一番)
電力應用 **藤 寅**
アイスクリーム、ミルクセーキ、
み つ 豆、あづきアイス、
其他清涼飲料一式 (出前迅速)

セメント
壁用材料
コールター
ペンキ塗料
板ガラス

警城セメント株式會社
代理店 **西村屋藥舖**
平町二丁目(電三)



平穩無事な初町會

戸數割審議も委員の手に

昨報の續き

昨報選舉異議申立を七名の委員附托に決して後「昭和四年度特別戸數割賦課額」の審議に入り伏見町長の議案説明があり、大森勇氏が見立割の根拠を質したるに對し遠藤助役は見立の基礎的説明は困難であると答へ更に大森氏起立

所得の申告が正確でないとの見地から見立割に依つて加減するものと思はれるが子供の養育は個人の子供を養育するのではなく國家の子供を養育するものであるから控除額の申請がある無しに拘らず子供を持つて居るもの、課税は相當に參酌され度

と述べ馬目武之助氏は屋賃所得總額に就て緑川喜三郎氏は滞納回収不能額に就いて夫々質問し吉田五平氏の質問打切りの動議に依り町を左記の四區に分割し町長の指名に依つて委員を舉げ戸數割の審議を委員會の手に移す事となり午後四時半頗る平穩無事な初町會を散會後、花澤兎五六氏の發意に依り電燈料値下に就いて協議した

▼第一區、新町、長橋、研古、紺屋、材木、搦槌小路(委員)吉村安治郎、永山富廣、馬目雅治、柳下元吉、吉田寅之輔、石山治三郎、吉田五平、千葉彦治、緑川喜三郎

▼第二區、鍛冶町、南町一丁目、二丁目、三丁目、田町(委員)國府田直良、萩原義雄、大森勇、坂本

隆藏、關内正一、野崎滿、齋藤敏賢

▼第三區、新川、月見、五丁目、大工、六七丁目、堀の内、鎌田(委員)武田元之助、根本品藏、井上茂作、馬目武之助、荒川淺治郎、佐藤岩次郎、鈴木光吉

▼第四區、久保、八幡小路、北目、胡摩澤、舊城跡、南北白銀、鐵道官舎四丁目、仲間町方面、(委員)荒川恒次郎、花澤兎五六、青沼隆太郎、佐々木龍若、櫻井清、高橋龜松、猪狩庄平

▼町會議員選舉異議申立書 昭和四年五月三十日施行の平町會議員選舉に際し左記四名の者は既に平町を退去し本町の公民として選舉權を有せざるに不拘同日選舉場に臨み投票を爲したるを以て選舉の結果當選者に異動を生じ從つて該選舉は無効と認められ候に付此段異議申立候也

立證 一、平町字柳町二番地若松武一郎は本年三月中旬郡内上遠野村大字澤繁に全家移住したるものなり

一、平町字柳町二十六番地吉田政吉は昭和三年十一月中無断逃走し其後東京市本郷區湯島天神町一丁目三十二番地江波戸新方方に居住しつゝあるものなり

一、平町字白銀町佐川友次郎は(鐵道官舎住居と名簿にあり)一本年三月中石城郡江名町に移住したるものなり

一、平町字田町柴崎忠太は本年二月中旬郡小名濱字下明神町へ移住したるものなり以上尙立證すべき證據書類は更に提出可致候也

立證 金古政通 町會議員選舉異議追加申立書 昭和四年五月三十日施行の平町會議員選舉に關し本月五日付を以て異議申立置候處更に左記事實有之候に付當然選舉の結果當選に異動相生し候に付此段異議追加申立候也

立證事實 本籍石城郡平町字研町拾叁番地 現住所東京市下谷區西町叁番地トノ十 佐々木 喜一 右之者從來大工職を業とし大正拾二年關東方面大震災直後東京市に出向移住し建築請負業を爲し引續き前記肩書地に現住し一戸を構へ居るに不拘本籍地たる平町選舉名簿に登録あるを奇貨とし平町住民なりとして同日選舉場に臨み投票をなしたるものなり以上

選舉異議申立

果して無効か

昨報平町會に於て議論沸騰遂に七名の委員附托となつた選舉異議に關する金子、鈴木兩君の申立書は左記の如くである

▼町會議員選舉異議申立書 昭和四年五月三十日施行の平町會議員選舉に際し左記四名の者は既に平町を退去し本町の公民として選舉權を有せざるに不拘同日選舉場に臨み投票を爲したるを以て選舉の結果當選者に異動を生じ從つて該選舉は無効と認められ候に付此段異議申立候也

立證 一、平町字柳町二番地若松武一郎は本年三月中旬郡内上遠野村大字澤繁に全家移住したるものなり

一、平町字柳町二十六番地吉田政吉は昭和三年十一月中無断逃走し其後東京市本郷區湯島天神町一丁目三十二番地江波戸新方方に居住しつゝあるものなり

一、平町字白銀町佐川友次郎は(鐵道官舎住居と名簿にあり)一本年三月中石城郡江名町に移住したるものなり

一、平町字田町柴崎忠太は本年二月中旬郡小名濱字下明神町へ移住したるものなり以上尙立證すべき證據書類は更に提出可致候也

立證 金古政通 町會議員選舉異議追加申立書 昭和四年五月三十日施行の平町會議員選舉に關し本月五日付を以て異議申立置候處更に左記事實有之候に付當然選舉の結果當選に異動相生し候に付此段異議追加申立候也

立證事實 本籍石城郡平町字研町拾叁番地 現住所東京市下谷區西町叁番地トノ十 佐々木 喜一 右之者從來大工職を業とし大正拾二年關東方面大震災直後東京市に出向移住し建築請負業を爲し引續き前記肩書地に現住し一戸を構へ居るに不拘本籍地たる平町選舉名簿に登録あるを奇貨とし平町住民なりとして同日選舉場に臨み投票をなしたるものなり以上

▼町會議員選舉異議申立書 昭和四年五月三十日施行の平町會議員選舉に際し他

町村へ移住したる若松武一郎、吉田政吉、佐川友次郎に選舉權を附與し左記應崎正見、諏訪喜一、佐藤大次郎、鯨岡七郎、藤岡齋記、坂上仲術の選舉權を拒絶したることは甚だ矛盾にして手續上の失當たるは勿論町制第三十二條に依り該選舉は無効と思料候に付同第三十二條に依り此段異議及申立候也

立證 平町柳町二番地若松武一郎は本年三月中上遠野村に移住し牧畜業を爲しつゝあり吉田政吉は昭和三年十一月中東京に逃走したるものなり

佐川友次郎は本年三月中よ江名町南町小平瀉湯屋に居住しつゝあり

一、應崎正見は前町會議員應崎貞衛氏の長男にして東京に居住するも平町は本籍地にして當日は應々選舉投票の爲の歸宅したるものなり

一、諏訪喜一は目下平郵便局に奉職中なるも本年四月二十五日内郷字大字小島に轉居したる爲め選舉を拒絶したるものなり

一、佐藤大次郎は本年五月上旬鎌田町より内郷村大字小島に轉居したる選舉當日は應々來平投票場に臨みたるも拒絶されたり

一、鯨岡七郎も本年四月迄警城炭礦發電所に奉職したるも東京に移住し選舉投票せんとしたるも入場券なき爲め投票を爲さず

好問村議

候補顔揃ふ

石城郡好問村々會議員選舉は来る廿七日執行されるが既に左記廿一名の立候補が

出で定員十八名に對し三名の超過を見てあるが、炭礦地だけに無産派の出馬もあり激戦を豫想されてある

強口唯七郎、高木源治、大河原茂平、吉田富吉、叶多清、吉田丑次郎、鈴木久吉、鈴木廣治、鈴木精平、猪狩貞一、神谷兼次郎、高木米吉、木田安次郎、大平新吉、志賀長壽、金成角治、森長太郎、根本丑之助、稻葉廣吉、佐藤千代松、清水真澄

田植後追肥 試験場の注意

平地方の田植は本月中に終了する豫定だが縣農事試験場ではこれが終了後における追肥につき二十一日左の要領の注意を各農事團休宛にした、追肥としては硫酸アンモニアが最も速効がある田植終了後二十日乃至一ヶ月ぐらひの間に水田に撒布するもので一ヶ月以上を經ては効果がなまた一般農家で追肥として大豆粕下肥などを使用する向もあるがこれは殆んど効果がな

いからよした方がいゝ

鷹崎氏逝く 大學病院にて

平町一丁目石城産科看護婦學校長鷹崎貞衛氏は胃癌に冒され仙台大學病院に於て手術せるも面はしからず昨日逝去した氏は前回の町議戦にて最高點の榮譽を獲ち得今回も周圍から立候補を迫られたが病氣の爲め辭退し遂に不歸の客となつたのである明日同學校にて告別式を行へ廿四日神谷村の先

葬寺に埋葬する由 開議中

病に襲はる 柳下町議が

平町々會議員柳下元吉氏は昨日平町會に於て戸數割の審議中突如病に襲はれ同僚議員に議席から助け起されて人力車により紺屋町の自宅に歸り臥床療養中であるが別段の事はなく多分心臓病らしいと

不景氣の爲めから 所得額七萬五千減

從つて賦課率が上る

昨日本町會に提案された本年度戸數割の前期賦課額は四萬七千七百六十五圓で此の内譯は所得額に依る算定額を十分の六に見積つて二萬八千六百五十九圓、資産狀況に依る算定額は十分の四で一萬九千六百圓あり所得額に對する賦課率は所得額一圓に付き一錢一厘八毛八に當つて居る尙ほ賦課人員は四千六百卅四人、所得總額二百五十六萬二千八百十圓であつて前年に比較す

ると戸數が十六戸の減を見且つ所得額も七萬四千四百四十四圓の減少である爲め賦課率は所得額一圓に付き三毛四の増加を示して居る埋藏量は

殆ど無盡藏 高坂坑の斜坑

内郷村警城炭礦では數年前より高坂坑の下に斜坑を試掘中であつたがこの程漸く着炭し本年度下半期よりいよゝ大規模に掘を開始

明日の天気

西の風大 体晴れ或 日は驟雨 あらん

初夏なら 麥藁帽子に

象牙のバイブ 宵の散歩へ 細身のステッキ 專賣特許 「デリケート」麥帽子 涼!快!!美!! ツルヤ 四丁目 電話百四十番